

2020年1月19日

日米安保条約改定 60周年記念レセプション

首相官邸HP令和2年1月19日



令和2年1月19日、安倍総理は、外務省飯倉公館で開催された外務大臣及び防衛大臣共催日米安全保障条約60周年記念レセプションに出席しました。

総理は、挨拶で次のように述べました。

「メアリー・ジーン・アイゼンハワーさん、メルル・アイゼンハワー・アトウォーターさん、そして御来賓の皆様。

本日、日米安全保障条約調印60周年のよき日を迎えました。

メアリーさん、私たちの祖父は、ゴルフで友情を育てました。1957年の6月、所はベセスダの、バーニング・ツリー・ゴルフクラブです。

戦争が終わって、まだ12年しか経っていませんでした。日本の首相はワシントンまではるばるやって来て、一体どんなゴルフをするのかと、大勢の記者たち始め、みんな興味津々だったと、後に祖父は、私にそう話しました。

最初の一打に、日本の名誉が懸かっている。そう思うと、手に汗がにじんだそうです。ところが、それまでのゴルフ人生で最も緊張して放った一打は、生涯最高のショットになったと、祖父は自慢げに、私に話しました。

どよめいた観衆は、次の瞬間、盛大に拍手をした。アメリカ人はフェアだとも思ったそうでもあります。

岸信介は、日本の首相として、アメリカの大統領とゴルフをした最初の人物でした。2番目はと言いますと、私でありました。

私はもう4回、トランプ大統領とゴルフを共にしました。これも日米同盟深化の証拠であろうと、口にはいたしません、心ではそう思っているわけでもあります。スコアは、国家機密にしておくという約束になっております。

ともあれ、アイゼンハワー、そして岸の二人がバーニング・ツリーで培った友情は、2年半の熟成を経て、新しい安保条約となって実を結ぶのであります。

1960年1月19日、午後2時40分、大統領と首相を始めたくさんの人々が埋めたホワイトハウスのイースト・ルームで、調印式は始まりました。

先立つランチで乾杯に立った時、こんな集まりは、本当ならゴルフ・コースでやるともっと成果が上がるんだと言って首相の頬を緩めさせた大統領は、調印式に臨むと、真剣にこう切り出します。この条約は、不滅である。

そのとおりでした。いまや、日米安保条約は、いつの時代にも増して不滅の柱。アジアと、インド・太平洋、世界の平和を守り、繁栄を保証する不動の柱です。

同盟強化の努力を日夜続けた人々に、深い感謝を捧（さ）げます。

アジアの平和に身命を賭した、無数の、無名の、アメリカ人兵士たちに。地震と津波が日本を襲った時に、被害者と涙を共にしてくれた米軍の将卒に。歴代自衛隊員を含む、同盟の充実に労を惜しまなかった、日米全てのアンサンブ・ヒーローズ、名も無き英雄たちに。

彼らの払った努力と犠牲が、我々を平和にし、繁栄させました。同盟をつなぐ信頼を、不拔にしたのです。

歴史の、配剤の妙でしょう。調印から遡ること一世紀の1860年。日本が初めて送り出した外交団は、所も同じイースト・ルームで、時のブキャナン大統領に会い、信任状を渡しています。日米関係の、始まりでした。

それから100年。岸首相は、アイゼンハワー大統領とあいともに、世紀の節目に立ち会いました。これから始まる新たな100年、両国に、更なる信頼と協力あれと、岸は挨拶で念じています。

今、当時の祖父と同じ年齢に達した私は、同じ誓いを捧げようと思います。

私たちは、日米を、互いに守り合う関係に高めました。日米同盟に一層の力を与えました。これからは、宇宙、サイバースペースの安全、平和を守る柱として、同盟を充実させる責任が私たちにはあります。

60年、100年先まで、自由と、民主主義、人権、法の支配を守る柱、世界を支える柱として、日米同盟を堅牢（けんろう）に守り、強くしていこうではありませんか。

100年先を望み見た指導者たちが命を与えた日米同盟は、

その始まりから、希望の同盟でした。私たちが歩むべき道は、ただ一筋。希望の同盟の、その希望の光を、もっと輝かせることです。ありがとうございました。」

外務大臣及び防衛大臣共催日米安全保障条約60周年記念レセプション

外務省HP 令和2年1月19日



1月19日、外務省飯倉公館において、外務大臣及び防衛大臣共催による「日米安全保障条約60周年記念レセプション」が開催され、安倍晋三内閣総理大臣、麻生太郎副総理兼財務大臣を始め、日本及び米国の政府関係者、国会議員、有識者等、約250名が参加しました。

冒頭、安倍晋三内閣総理大臣、茂木敏充外務大臣が挨拶を行い、続いて、ジョセフ・ヤング駐日米国臨時代理大使、ケヴィン・シュナイダー在日米軍司令官、アイゼンハワー元米国大統領の孫のメリー・ジーン・アイゼンハワー氏が挨拶を行いました。その後、河野太郎防衛大臣が乾杯の挨拶を行いました。

安倍総理は挨拶の中で、日米安全保障条約調印に臨んだアイゼンハワー元大統領と岸元総理とのやり取りを振り返りながら、日米安保条約は、いまや、いつの時代にもまして不滅の柱であり、アジアと、インド太平洋、世界の平和を守り、繁栄を保証する不動の柱である旨述べました。また、同盟強化の努力を日夜続けた人々に、深い感謝をささげるとともに、「希望の同盟」である日米同盟の希望の光を、更に輝かせる旨表明しました。

また、茂木外務大臣からは、先般の米国サンフランシスコ訪問の際に、ポンペオ国務長官との間で日米同盟の更なる強化を進めることで一致した旨紹介するとともに、日米同盟の発展に大きな貢献をされたジョージ・シュルツ元米国国務長官から「当時、安倍晋三外務大臣とは、完全な相互信頼の上に、公私にわたり非常に親密な関係を築いていました。私が常々モットーとしているのは『世の中で通用するのは信頼だ』であり、我々二人はそうした信頼を共有していました。」との安倍総理宛メッセージを紹介しつつ、その上で、現在の日米関係は安倍総理とトランプ米大統領の強い信頼関係によって、かつ

てなく強固であり、日米同盟を深化させてきた先人たちに心より敬意を表すとともに、外務大臣として日米同盟の一層の強化に努める決意である旨述べました。

また、河野防衛大臣からは、日米安保条約は我が国の防衛のみならず、米軍の前方展開、そして地域の平和の礎となつてしつと、現下の安全保障環境の下での日米同盟の重要性を強調しました。

これに対し、米国政府を代表し、ヤング臨時代理大使が、過去60年もの間、偉大な両国の盤石な同盟は、米国、日本、インド太平洋地域、そして世界全体の平和、安全及び繁栄に不可欠な役割を果たしてきたことを讃えるトランプ米大統領の記念メッセージを代読した上で、変化し続ける安全保障環境の下、同盟を更に発展させていきたいとする米国政府の方針を改めて表明しました。

今回のレセプションでは、旧・日米安全保障条約署名本書並びに、日米安全保障条約署名本書及び批准書の展示を行うとともに、旧・日米安全保障条約及び日米安全保障条約の署名式やトモダチ作戦、安倍総理とトランプ大統領の海上自衛隊の護衛艦「かが」訪問等の写真の展示を行い、日米安全保障条約60周年を祝福しました。